

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

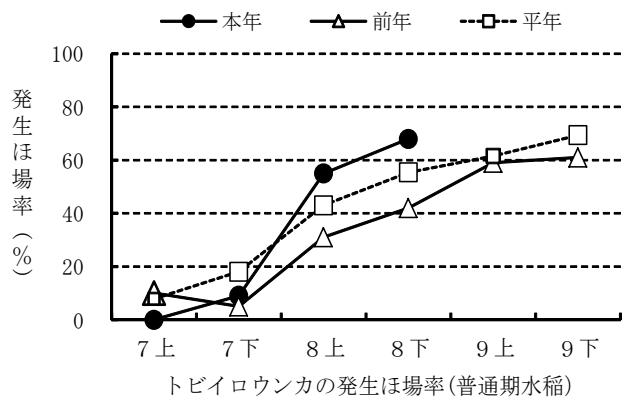
平成28年度 技術情報第11号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

トビイロウンカの現時点での発生状況等については以下のとおりで、今後の発生状況に注意し、適切な防除をお願いします。

平成28年度 技術情報第11号

1 発生状況等

- （1）8月18～24日に県内31地点（調査ほ場数62ほ場）で行った巡回調査での発生ほ場率は68%（平年55%）と平年並みで（右のグラフ及び参考資料の表1）、発生程度はすべて少発生と現時点では発生密度は低い状況であった。
- （2）しかし、発生ほ場の80%で短翅型雌成虫が認められており、今後、次世代以降の発生密度が高まることが懸念される。なお、今回確認された短翅型雌成虫は、7月14日飛来虫由来の第1世代及び6月21日飛来虫由来の第2世代と推察された。



- （3）鹿児島地方气象台が8月25日に発表した向こう1か月の気象予報によると、九州南部の気温は高いと予想されており、トビイロウンカの増殖に好適な条件が見込まれている。また、早期水稻の一部で既に坪枯れが発生しており、9月以降は普通期水稻でも坪枯れの発生が懸念されるので、今後の発生状況については十分な注意が必要である。

2 防除の考え方

- （1）7月14日飛来虫に由来する第2世代の防除時期は8月28日以降と予想され、同様に6月21日飛来虫に由来する第3世代の防除時期は9月5日以降と予想される（参考資料の有効積算温度利用によるトビイロウンカの発生経過予測図を参照）。なお、発生経過予測は、8月の気温が平年に比べ高く経過したため、当初の発生経過予測（7月21日作成）よりも若干早まっている。

3 防除上注意すべき事項

- （1）トビイロウンカは増殖率が非常に高く、8月下旬以降には高密度となり坪枯れ被害を生じる恐れがある。残暑型の年にはしばしば、稲作後期まで増殖率が高く、被害が多発する傾向があるので注意する。
- （2）本種は稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布する。
- （3）ほ場では各虫態が混在しているので、防除を実施したあとも、その後の発生に十分注意する。また、ほ場内の分布にはムラがあるので、ほ場全体の発生状況を確認する。
- （4）薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

(参考資料)

有効積算温度利用によるトビイロウンカの発生経過予測図 (鹿児島地方気象台：加世田のデータを使用)

鹿児島県病害虫防除所 2016年8月25日 作成

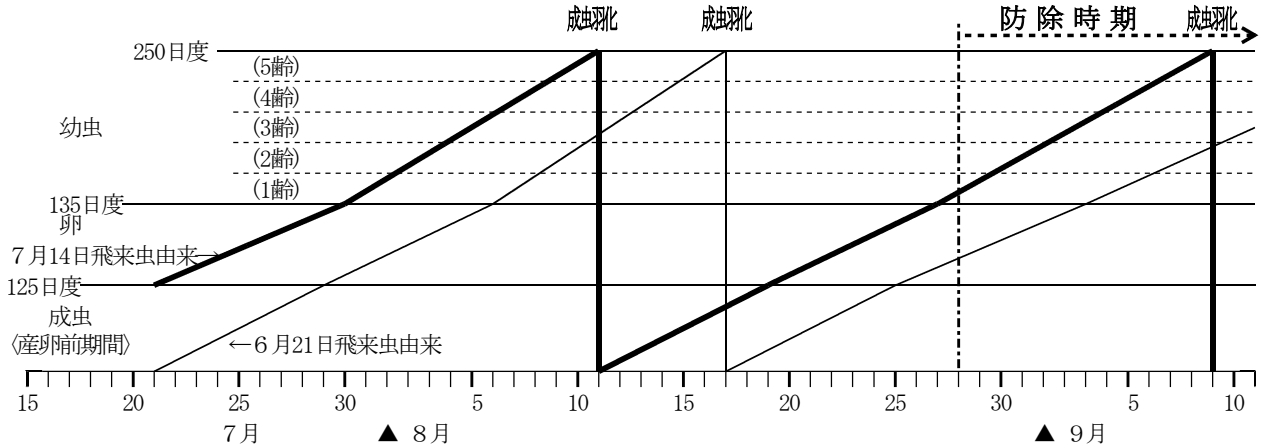


表1 巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況 (調査日：8月18～24日)

地域名	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)	
		本年	平年
南 薩	10	70	62
北薩平坦	24	58	53
北薩山間	22	64	56
大 隅	6	100	57
県計(平均)	62	68	55

※ 平年は2006～2015年の平均値

※ 巡回調査地点

南 薩： 南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目

日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦： 鹿児島市東佐多町，始良市三拾町・蒲生町楠田

霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎町・高江町

出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田

薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内

北薩山間： さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手

伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・木崎・山野，湧水町北方

大 隅： 曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里